

図画工作科

1 図画工作科でねらうもの

学習指導要領の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

小学校図画工作科の目標では、児童自身に本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童がつくりだす喜びを味わうことを重視し、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、生活や社会と主体的にかかわる態度を育て、豊かな情操を味わうことが大切である。

表現及び鑑賞の活動	<ul style="list-style-type: none">・感じたことや想像したことを造形的に表す喜びを味わわせる。・作品などからよさや美しさを感じ取り、見方を深める力を育てる。・表現と鑑賞の活動をお互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら行うこと。
感性を働かせながら つくりだす喜び	<ul style="list-style-type: none">・児童の感覚や感じ方、表現の思いなど自分の感性を十分に働かせる。・作品などをつくったり見たりすることそのものが喜びであり楽しいことを示している。
造形的な創造活動 基礎的な能力	<ul style="list-style-type: none">・自分の思いを形や色などで表したり、よさや美しさを感じ取ったりする。・発想や構想、創造的スキル、鑑賞などの能力。
豊かな情操	<ul style="list-style-type: none">・「情操」は、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心がいい、よさや美しさなどのよりよい価値に向かう傾向をもつ意志や心情と深くかかわっている。

2 学習指導要領の特色

(1) 基本方針

- ① 図画工作科の課題を踏まえ、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。
- ② 創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。
- ③ よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。
- ④ 美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。

(2) 具体的事項

- ① 表現や鑑賞の活動を通して、自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら造形的な創造活動の基礎的な能力を高め、生活や社会と主体的にかかわる態度を育て、豊かな情操を養うことを重視する。

- ② 育成する資質や能力を整理し、表現や鑑賞の過程で働く力を明確にするとともに、それらが関連して働くように内容の改善を図る。また、児童が自らの行為や感覚をもとに形や色、イメージなどを活用して活動することができるように、領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を〔共通事項〕として示す。
- ③ 生活や社会とのかかわり、ものをつくる楽しさなどの観点から、手や体全体の感覚を働かせて材料や用具などを活用してつくったり、身の回りの形や色、環境などから感じ取ったことを伝え合ったりする活動を児童の発達に応じて整理して示す。
- ④ 鑑賞においては、よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、自分の思いを語る、友達と共に考える、感じたことを確かめるなどを通して、自分自身で意味を読み取り、よさや美しさなどを判断する活動の充実を図る。
- ⑤ 暮らしの中の造形や我が国や諸外国の親しみのある表現などに関する学習では、作品などのよさや美しさを主体的に味わったり感じたりすることを重視する。

3 道徳との関連

図画工作科において、つくりだす喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながる。また、造形的な創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

4 図画工作科における言語活動

言語活動の充実について、図画工作科においては、主に鑑賞の活動で整備された。鑑賞の活動においては、児童の発達段階に応じて次の事項を指導する。

第1学年及び第2学年

感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

第3学年及び第4学年

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いがわかること。

第5学年及び第6学年

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

低学年では「聞く・話す」、中・高学年で「話す・話し合う」、中学校1年で「説明し合う」、中学校2・3年で「批評し合う」と、発達の段階に応じて、なだらかに整理された。これまでの鑑賞活動を言語活動の観点から見直すことが求められている。ただ小学校においては独立した鑑賞を想定するのではなく、これまで以上に、表現における鑑賞活動が重視されている。